

平成30年度 学校目標評価中間集計

領域	対象	具体的な目標	目標達成のための行動計画・方策など	評価	代表的な意見・評価の理由
教育活動	全般	生徒の自主性を育てる	自主活動についての議論の場を設定。 生徒自らの手で主体的・自主的な学校生活を送るための支援。	3.9	【自治活動支援】 ・行事日程については、できる限り生徒の意見を尊重しつつ、調整をした。 ・生徒自らの自主性を尊重しつつも、日頃から注意・助言を行い、思考させる力をつけるよう指導している。 【自主的な学習】 ・予復習課題の配布や、授業中の教材に関する話題提供等により生徒の自主的な学習の意欲喚起を図っている。 ・自学自習を促す教材を用意している。
	学習指導	広い分野で確かな学力を養う	自学自習ができる向上心・探究心の涵養。 自学自習の学習時間を確保するための研究。 探究的な学びを推進するための研究。	3.4	【土曜日用の活用】 ・平日に土曜授業(3コマ)分を入れることで、生徒が、考査前の学習時間を確保できるようにした。 【学年集会・HRでの喚起】 ・HRや授業を通して大学での学びや社会とのつながりを伝え、興味や関心を引き出した。 【学年集会・HRでの喚起】 ・土3の「総合」の時間を活用し、探求的な学び・グループワークを行っている。 ・夏休み等を利用して、生徒全員が自ら計画を立て、オープンキャンパスや体験入学等に参加する企画を催した。 ・進路通信による啓蒙をおこない、自ら学ぶための個別指導、また教材作成をおこなった。
		進路希望の実現を図る	教育課程の改善と次期教育課程の研究。 生徒の資質・能力を高める指導方法の研究。	3.4	【教育課程の研究】 ・現行教育課程の課題の見直しを踏まえ、新教育課程の編成について研究を始めている。 【学年の実践】 ・生徒理解の一助として各種検査を実施し、アドバイスを活用した。 ・教科間のバランスを考慮し、総合点で最大の効果が得られるように工夫をした。 ・学習と進路の手引を作成した。また、進路検討会の実施を2回予定している。
	進路指導	計画的な指導を行う	外部講師による進路講演会、大学説明会、卒業生との懇談、進路通信、学年集会、個別面談、適性検査等を通じた進路意識の啓蒙。企業や大学と連携したキャリア教育の充実。教員を対象とした進路指導研修会の実施。	3.8	【係の実践】 ・学習実態調査、進路希望調査の結果を校内で共有し、進路指導に役立てている。 ・進路別ガイダンス、模擬講義、卒業生と語る会、大学生によるワークショップ、医学科講演会などを実施して、進路について考える機会を提供している。 ・スタディサポート、模擬試験、適性検査の分析を行い、各学年の個別指導に役立てている。 ・黎明(合格体験記)および学年通信を通して進路意識の高揚を図っている。 【キャリア研修・オープンキャンパス】 ・1年夏休み、2年10月にそれぞれキャリア研修を実施し、大学と学問研究、企業と職業について理解を深めた。1年には5月に講演会も実施した。10月に名古屋大学の先生による工学部の説明会を実施した。
	生徒の自治	自治活動を保障し、自治的精神を育成する	学級活動・部活動・生徒会活動における生徒の自主性や、リーダー育成のための機会の保障と指導助言。文化祭・講演会など生徒会行事に対する支援と指導助言。	3.7	【自治活動の涵養】 ・生徒会活動においては「自治」の精神に基づき、生徒の自主性を尊重しつつ、広く科会に受け入れられる人間形成の場として、助言・指導・支援を行っている。 【幹事会】 ・学年の各ルーム長から構成される幹事会については、生徒の自主性を十分に尊重しつつ、学年クラスマッチ等が有機的に運営されるよう、助言・指導・支援をしている。
	生活指導	規律ある生活のリズムをつくる	学習を中心とした生活リズムの確立(部活動・生徒会活動の時間徹底)。 清掃・保健・交通安全指導。	2.9	【生活リズムの管理・交通安全】 ・今年から「出欠管理ファイル」をネット上で共有し、担任が、その日の生徒の授業への出欠状況を把握しやすいうようにした。 ・有効に活用されているが、欠課が高んでいる生徒については、教科担任とクラス担任が連絡を密に取り合う必要がある。 ・自転事故防止と交通マナー向上のため、HRでの注意喚起や、全職員による街頭指導を実施した。
適切な個人指導及びカウンセリング体制を充実させる		教科担任・HR担任・クラブ顧問の連携。 きめ細やかな生徒相談の実施。 保護者との懇談の実施。	3.8	【カウンセリング】 ・スクールカウンセリングの利用について、周知が不十分な部分があったため、保護者へはPTA総会で説明、新入生へはお便り等で周知し、体制の充実をはかった。 ・スクールカウンセラーの支援のもとに、関係職員が情報を共有し、悩みを抱える生徒や保護者への丁寧な対応につなげることができた。 【サポート体制】 ・管理職、学年代表、養護、係とで定例会を行い、支援の必要な生徒の情報共有に努めた。学年ごとの垣根を越え、学校全体で生徒を支える体制になるよう、今までのシステムを見直し、意識を高めるよう働きかけている。	
学校運営	安心安全な学校	快適な学校環境の整備を図る	危機管理体制の整備。 いじめ・体罰のない学校環境の確保。 健全な職場づくりの推進。 環境対策(ゴミの削減、電気・水道使用量の削減)。	3.4	【いじめ・体罰への対応】 ・学校生活アンケートを実施し、現在集計中である。課題については適切に対応している。 【職場環境】 ・学校衛生委員会を通じて、年休、振休取得、ドック受診の勧奨、休憩時間でのストレッチ運動の奨励等を行っている。 【環境対策・危機管理】 ・H32年4月からの敷地内禁煙完全実施に向けて環境整備を行っている。 ・台風の影響を考慮して2時間の授業カットを行った。(回復処置済み)
	開かれた学校	保護者との連携を図る	PTA総会の開催、学年・学級PTAの開催。 地区PTAの開催。 保護者面談の実施、適切な家庭訪問の実施。 緊急時メーリング・システムの活用。	4.0	【緊急時メーリングシステム】 ・台風時の日課変更、就学支援金事務手続き、保護者アンケート実施の際にメールシステムを活用した。 ・地区PTAにおいて学校の近況を報告し、保護者と課題の共有を図っている。 【学年等の実践】 ・年1回のPTA総会・学年PTAの実施、複数回の学級PTAの実施によりそれぞれの方針・課題を伝え、共有することができている。 ・地区PTAは出席率も高く、非常に有効な交流の場となっている。そのため新たに開催される地区が増えてきている。 ・適宜、正副担任と保護者・生徒との面談を実施し、学校生活や進路についての相互理解をはかっている。
	開かれた学校をめざす		「評価および公開方法」の改善と充実。 保護者・地域・中学校への情報発信。 中学生体験入学等の実施。 学校評議員会の開催、ホームページの充実。	4.1	【中学校などへの発信】 ・9月の体験入学では、生徒・保護者800名ほどの方に来ていただいた。中学生には実際に授業を受けていただき、深志高校の一番の部分を経験してもらった。アンケート結果からは、全体会のあり方について、今後、検討が必要であることが読み取れた。次年度に向け、検討をしていきたい。 【学校評価・HP】 ・生徒の評価、また学校評議員・PTAによる外部評価をおこない、会報やHPによって報告できるよう取り組んでいる。 ・ホームページを常に更新することで、積極的な情報発信に努めている。